

公衆衛生委員会では、月に1回程度外部委員より公衆衛生等について有益な情報を提供いただいております。情報について、協会職員の皆さまにもお役立ていただける内容が多くあると考え、共有させていただきます。ぜひお読みください。

よろしくお願いたします。

今回は、昨年11月と今年1月の公衆衛生委員会でご発表いただいた外部委員の先生方からの情報をご紹介します。

ご発表いただいた先生方

尾島 俊之 先生（浜松医科大学健康社会医学講座 教授）

藤内 修二 先生（大分県福祉保健部 理事兼審議監）

JADECOM公衆衛生委員会  
2023.11.9

## 災害対応の最近の体制

浜松医科大学健康社会医学講座教授  
尾島 俊之



## ヘルスプロモーションの実践 における病院への期待

本発表に開示すべきCOIはありません

大分県福祉保健部 藤内 修二

JADECOM 公衆衛生委員会  
2023.11.9

### 災害対応の最近の体制

浜松医科大学健康社会医学講座教授 尾島 俊之

DHEAT（災害時健康危機管理支援チーム、Disaster Health Emergency Assistance Team）は、災害時に、被災地の公衆衛生責任者を補佐して、マネジメントを支援する仕組みである。2011年の東日本大震災において、公衆衛生上の課題が多く発生したことから、公衆衛生版DMATが必要ということで、災害支援パブリックヘルスフォーラム（尾身茂代表）が発足し、構想が検討された。その後、全国衛生部長会災害時保健医療活動標準化検討委員会において具体的な制度設計が検討された。その検討結果を受けて、2018年に厚生労働省から災害時健康危機管理支援チーム活動要領が発出された。同年の西日本豪雨で初めての出勤が行われた。最近、被災都道府県の職員で本庁等で活動する統括DHEATも制度化された。

保健医療福祉調整本部は、熊本地震の検証結果を受けて、2017年に保健医療調整本部の設置に関する通知が出された。その後、災害派遣福祉チーム（DWAT）が創設されたことなどから、2022年に保健医療福祉調整本部とする旨の厚生労働省通知が出された。厚生労働科学研究「災害発生時の分野横断的かつ長期的マネジメント体制構築に資する研究」班において、小冊子「保健医療福祉調整本部におけるマネジメントの進め方」をとりまとめた。保健医療福祉調整本部等における災害時の組織対応の原則（CSCA）、保健医療福祉調整本部の構成要素等の整理を行った。また、災害対応全体の流れとして、目的、戦略、目標、戦術、また情報収集、状況認識、意思決定、実施のOODAループによりまとめた。

最後に浜松医大での災害対応について、紹介した。事業継続計画（BCP）の策定により、インフラ被害想定等が明確となり、その補強等が進められた。また、毎年、実践的な災害対応訓練が行われている。

### ヘルスプロモーションの実践における病院への期待

大分県福祉保健部 理事兼審議監 藤内 修二

生活習慣病対策をはじめ健康づくりのためには、健康的な生活習慣の実践を容易にする「健康を支援する環境づくり」が重要である。病院の運営や院内での診療活動を通して、どのような関わりができるかを提案する。

#### 健康を支援する環境づくりの取り組み

##### ①健康的な食生活の実践を容易にする食環境

台東病院のヘルシーコンビニプロジェクトはその代表的な例

大分県の「うま塩」プロジェクトは、美味しい減塩食を提案

「うま塩」配食サービスにより、人工透析を回避した糖尿病性腎症患者も

##### ②運動習慣を容易にする環境

身近に運動施設や安全に歩行できる歩道を整備する

##### ③健康的な生活習慣を容易にする職場環境

「健康経営」として取り組みが進められている

##### ④健康のために運動や休養を取ることに地域の理解がある

#### 企業との協働による効果的な啓発や社会環境の改善

大規模商業施設とのコラボによる健康イベント

効果的な啓発と企業ブースで健康に資する商品・サービスの紹介

報道機関との協働による健康番組の作成と報道

保健医療の専門家による良質な報道コンテンツの提供

金融機関や保険会社等との協働による健康経営の推進

健康経営セミナーの開催や経営者へのアプローチ

#### 病院による効果的な啓発や社会環境改善の取り組み例

患者に対する健康に資する商品やサービスを紹介する

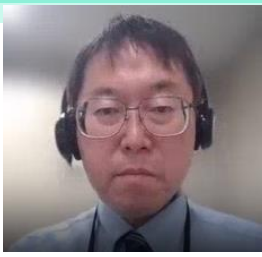
報道機関や大型商業施設等と協働で健康情報を発信する

健康づくりのニーズを企業に橋渡しをする

行政に対する働きかけ（健康増進計画や長期総合計画策定への関与）

産業医として、健康経営を推進する

→ こうした協議を院内の多職種で行ってみよう



## 尾島 俊之 先生

### 浜松医科大学健康社会医学講座 教授

「災害対応の最近の体制」をテーマに、DHEAT・保健医療福祉調整本部等についての情報提供をいただきました。

#### DHEATとは

- 災害時健康危機管理支援チーム
- Disaster Health Emergency Assistance Team
- 災害時に、被災地の公衆衛生責任者を補佐して、マネジメントを支援

- 東日本大震災を契機に発足当時の経験から公衆衛生版DMATが必要となる



尾身 茂 先生を代表とした災害支援パブリックヘルスフォーラムが立ち上がった

- その後、本格的な立ち上げに進み、制度の検討を続け、平成30年3月に災害時健康危機管理支援チーム活動要領が厚労省から発出された。その年の夏、西日本豪雨が発生しDHEAT 実用運用第1号となり、長崎県の医師が岡山県に出動した

- その他にも好事例として、2019年の佐賀県での水害で熊本県や大分県の医師が支援に行く等の活動がある

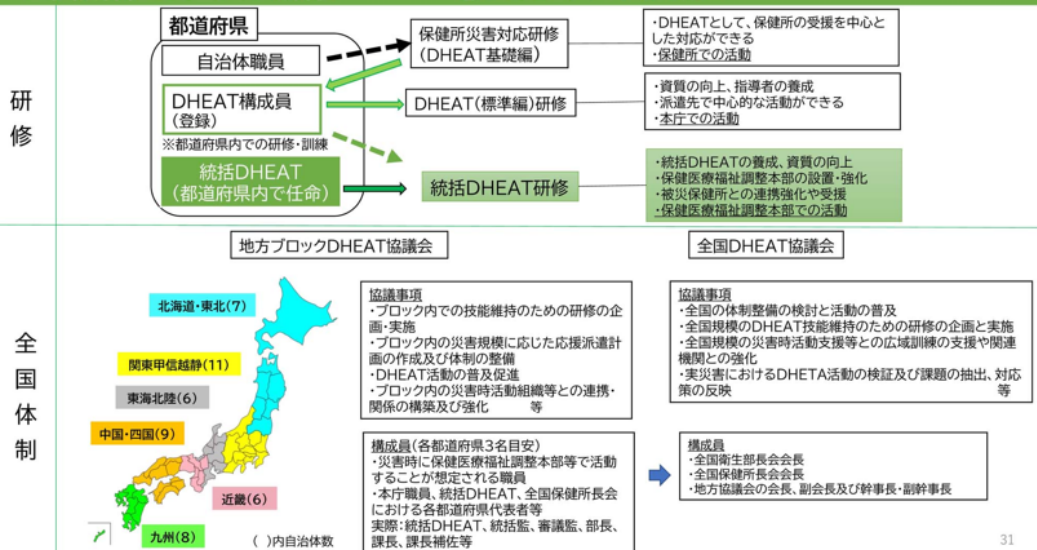
- DHEATは情報収集をして分析評価し、指揮調整をする活動を被災地の公衆衛生関係の方々と一緒に支援者が行う制度として動いている

- 全国、地方単位で色々な研修が行われていたが、令和5年度は基礎編研修、標準編研修と初めて統括DHEAT研修が予定されている

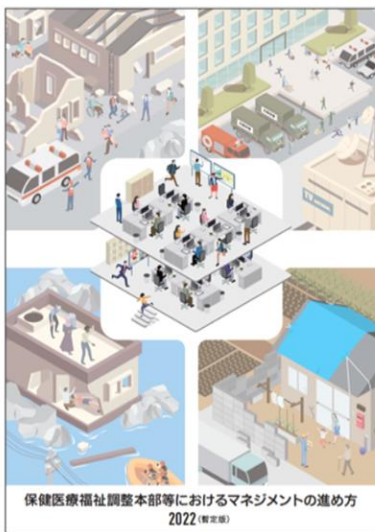
## DHEATに関する令和5年度の動き

### 2) 統括DHEAT研修

### ① DHEATの整理



尾島先生が所属している  
研究班で小冊子を作成



保健医療福祉調整本部等におけるマネジメントの進め方 2022 (暫定版)

厚生労働科学研究「災害発生時の分野横断的かつ長期的マネジメント体制構築に資する研究」班作成  
<http://dheat.umin.jp/>

保健医療福祉調整本部設置の経緯

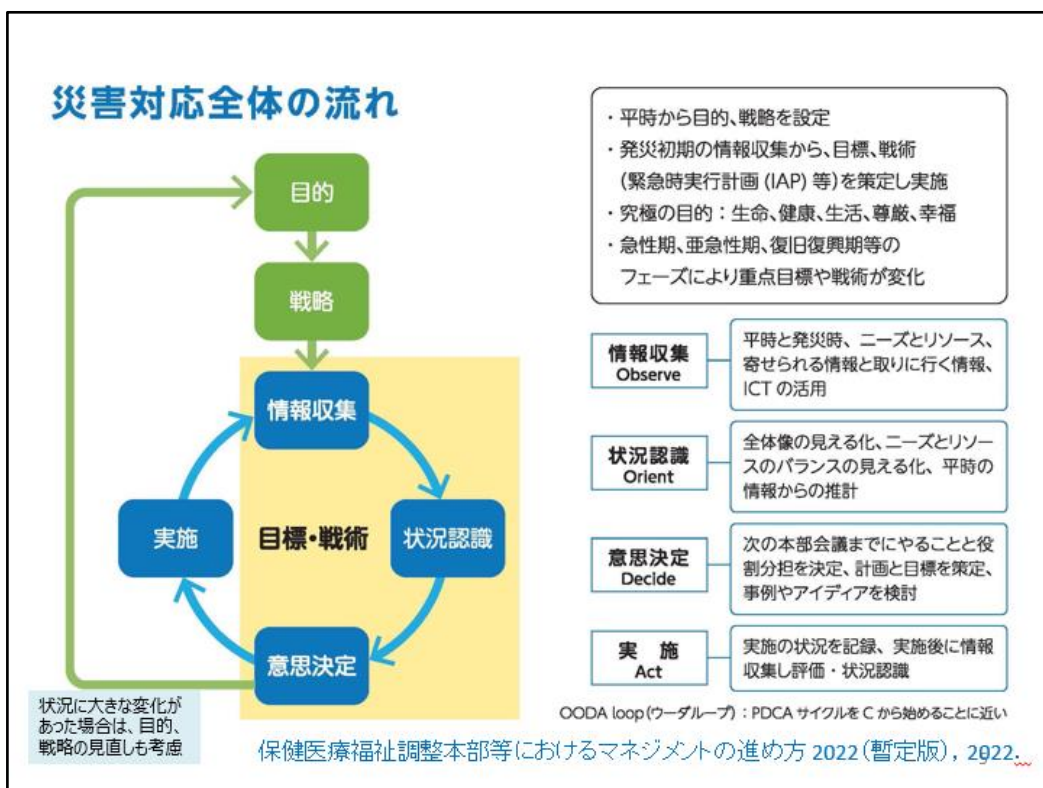
- ・ 2016年に起きた熊本地震で検証が行われ、保健医療について情報共有ができずバラバラ、重複、類似した活動が行われている問題があり、平成29年に厚労省より保健医療調整本部設置の通知が出された
- ・ その後、災害派遣福祉チーム (DWAT) が制度化されたこともあり、福祉も一体的に検討した方がよいことから、保健医療福祉調整本部として立ち上げる通知に改正された

保健医療福祉調整本部等における災害時の組織対応の原則 (CSCA)



小冊子「保健医療福祉調整本部等におけるマネジメントの進め方 2022 (暫定版)」で、災害対応時には **(CSCA) 指揮・調整、安全の確保、情報交換・共有、評価が大事**で、要素について検討し、本部が上手くいくようにと提言している

- ・ 目的を確認し戦略を考え、情報収集し状況認識をして、意思決定をして実施するループ (OODA loop) を回すことが大事



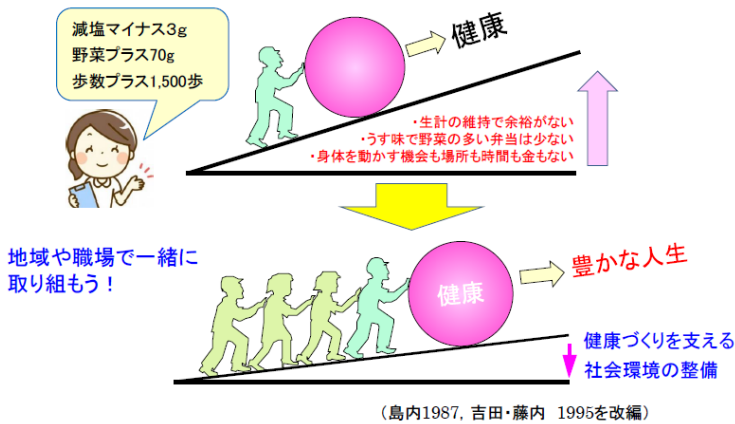


## 藤内 修二 先生

大分県福祉保健部 理事兼審議監

「ヘルスプロモーションの実践における病院への期待」をテーマに、健康を支援する環境づくりを主眼として情報提供をいただきました。

### ヘルスプロモーションの理念



- ・健康的な生活習慣の実践は容易でない
- ・いかに地域や職場で一緒に取り組むかが重要

健康を支援する環境づくり  
4つのポイント

- ・いつでも、どこでも取り組むことが可能な環境
- ・健康づくりは取り組みやすさが大切

### 健康を支援する環境づくり

- ・ 健康的な食生活の実践を容易にする食環境  
ヘルシーな外食や中食(弁当等)が安価で入手できる  
野菜などの生鮮食料品が容易に入手できる  
減塩商品などへのアクセスが容易にする
- ・ 運動習慣を可能にする環境  
身近に運動施設や安全に歩行できる歩道がある
- ・ 健康的な生活習慣を容易にする職場環境  
仕事の場で健康への配慮が行われている  
職場で昼休み等に運動ができる  
社員食堂でヘルシーメニューが提供される } 健康経営の推進
- ・ 健康のために運動や休養を取ることに地域の理解がある

### 食環境の整備 「うま塩」プロジェクト

【コンセプト】 旨味を、上手く使った、美味しい減塩食 → 「うま塩」

・外食・中食向けの美味しい減塩の手法を開発

【事業の展開】

①産学官の連携による美味しい減塩レシピの開発

みそ・しょうゆに代えて、ケチャップ等を活用

旨味成分(グルタミン酸)が多く、塩分は1/5

「地産地消」で「うま塩」メニューコンテスト

優秀なメニューは地場企業と連携して商品化

お弁当やお惣菜の「うま塩」化

②外食への展開 → 「うま塩メニュー」提供店舗 145店舗

③配食サービスへの展開 → 高齢者や自宅療養者の利用

糖尿病性腎症の患者の透析導入の回避

大分県で9年前にスタート

大きな成果が出ている

プロジェクトの多様な展開

みそ・しょうゆをケチャップにして美味しく健康に

## 配食サービスの「うま塩」化

- ・糖尿病性腎症の患者で、非常に素晴らしい経過を示した患者が「うま塩」認証の配食サービスを利用されていた。

→ 美味しい減塩食で、確実に減塩



既存のうす味配食サービスから  
美味しい配食サービスへ

確実な減塩で人工透析回避の  
患者さんも多数

- ・ 人集めが大変な健康イベントも、もともと人が集まる商業施設で開催する  
→ たくさんの方が興味を持って参加される
- ・ 企業と協働した健康への取り組み  
→ 互いに大きなメリットにつながる

## 企業との協働による効果的な普及啓発

- ・ 大規模商業施設とのコラボによる健康イベント  
大型スーパーで「健康寿命延伸」フォーラム  
企業ブースで健康に資する商品の紹介
- ・ 報道機関との協働による健康番組の作成と報道  
報道機関にとって、健康番組は視聴率を期待  
専門家による良質な報道コンテンツの提供
- ・ 金融機関等との協働による健康経営の推進  
金融機関や保険会社による中小企業の健康経営の推進  
金融機関等との協働により経営者も「乗り気」に  
産業医だけでなく、リハ職や栄養士の専門性を発揮して  
健康づくりの支援



- ・ 多くの企業が健康的な環境づくりへの取り組みを実施
  - ・ アイデア次第で色々な企業との多様な健康への効果的な取り組みが可能
- 住民は健康に、企業は業績アップになる

## 企業との協働による効果的な普及啓発

- ・ 花王の「スマート和食」  
脂質を減らしてタンパク質を増やす  
脂質はオメガ3を中心に、糖質は食物繊維と一緒に  
→ こうしたレシピを社員食堂や弁当屋に提供
- ・ ロッテとの協働によるオーラル・フレイル対策  
咀嚼力チェックガムを活用したオーラル・フレイルのチェック  
医療機関や介護施設に通う高齢者を対象に「お口の健康教室」の開催
- ・ 大分キャンノンによる健康関連のフォトサービス  
健康関連の情報発信用写真をキャンノンの職員が撮影
- ・ 地元のプロ・スポーツチームとの協働による「推し活」の支援  
施設入所の高齢者にとって生きがいにつながる

## 病院による健康的な環境づくりへの期待

- ・ 患者に対する健康に資する商品やサービスの提供  
減塩の配食サービスなどの紹介  
糖尿病等の肥満患者に対するスポーツクラブの紹介
- ・ 報道機関や大型商業施設等と協働での健康情報の発信  
医師、管理栄養士、看護職など専門性の発揮
- ・ 健康づくりのニーズと企業との橋渡し  
地域住民や患者の健康づくり(生活習慣の改善を容易にする支援)のニーズを満たすために、企業との協働を促す
- ・ 行政に対する働きかけ  
健康的な環境づくりにおける行政の役割を訴える  
長期総合計画の策定・推進への支援
- ・ 産業医として、健康経営の推進

地域住民や患者への  
病院による健康的な  
環境づくり  
5つのポイント

環境づくりに向けて  
医療に携わる多くの  
専門職種と一緒に  
取り組み、知恵を持ち  
寄ることが有効